

「教育活動評価」結果に見る考察

1. 学校運営について

1) 調理科

- ・保護者と生徒の満足度に違いがあり、高いレベルで同等になるようにしたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・各項目、高評価は6割前後。生徒に対する通信だより等、工夫が必要。

3) 普通科情報表現コース

- ・「相談・助言について」「学校の通信だより」の満足度が低いことから学校とのつながりをより求めていると思われる。

4) 普通科デザインアートコース

- ・状況に応じた対応をしていると感じている。

5) 普通科総合コース

- ・「学校の通信だより」が全体集計よりも生徒・保護者からの評価が高いのは、全クラスでクラス通信を発行しており、家に持ち帰る生徒が多いためと思われる。学校からのプリントやコース通信なども関係していると思うが、クラス通信の発行が大きいと思われる。
- ・「相談助言」は全体集計に比べて保護者の評価が高い。日常的な電話や保護者面談を多く実施して、日常的な生徒理解や保護者との連絡などが徹底しているためと思われる。

6) 普通科健康スポーツコース

- ・悩みを相談できる環境や雰囲気の一層の充実が求められる。

7) 教務部

- ・学校スローガンは、教職員が意識していても、生徒には伝わっていないという残念な数値となった。もっと教職員が発信、体現する必要がある。保護者からは、開かれた学校づくりについて高い評価を得られているので、今後も情報の発信を続けていくべきだ。また、震災以降は多少の不便をかけているために、生徒からの評価が低いと思われるが、設備の面で不満があっても、学習内容で満足させるように努めたい。

8) 進路指導部

- ・相談・助言について、生徒の評価が低めなのが気になる。生徒が気軽に相談できる環境をつくる必要性を感じる。

9) 生活指導部

「いじめ・暴力について」・・・

- 教職員の評価と生徒、保護者の評価に開きがある。
- 保護者の自由記述欄にいじめを示唆する記載もあり、教員の見えないところでのいじめ・暴力が気に掛かる。
- 生徒一人ひとりとの関係づくりに努め、生徒の悩みに耳を傾け、問題の潜行を防ぐよにする必要がある。
- 生徒が安全、安心できる環境づくりに向けて、使命感を持って取り組みたい。

10) 防災担当部

- 防災に対する意識は高いと感じた。個人または家庭での防災に対する備えや対応を話し合われていることが推測される。
- 震災を体験し個人や家庭または地域など災害に対する意識や備えが非常に高いと感じる。また状況に応じた行動をとれる力を持っていると感じる。学校として、非常事態が発生した時に全生徒や教職員の無事が確保できることと確実に保護者へ引き渡すことや連絡がとれる環境を整えることが急務と考える。

2. 4つの重点目標について

1) 調理科

- 保護者と生徒の満足度に違いがあり、高いレベルで同等になるようにしたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- 生徒・保護者とも8割前後が高い評価であり、科の特性は十分理解されていると言える。

3) 普通科情報表現コース

- 授業内容について保護者は高評価だが、生徒の評価が低い。授業内容再考の余地あり。

4) 普通科デザインアートコース

- 授業の進め方等に理解を示し、学習に対する満足度は高いと感じる。
- 欠席や遅刻が多かった生徒は、前向きに考え減ってきている。

5) 普通科総合コース

- ・「欠席遅刻」「礼儀作法」「校内ルール」については全体集計より「できた・ほぼできた」が生徒保護者ともに若干低く、自覚はしているようだ。保護者の協力を得ながら指導することが大切である。
- ・「検定試験」「キャリア教育」「インターンシップ」については特に保護者の関心が高い。進路全般に対する意識の高さが伺え、コースとしても考慮しなければならない。

6) 普通科健康スポーツコース

- ・基本的な生活習慣や規範意識を高く持っている。

7) 教務部

- ・科コースの特色を活かした授業、シラバスともに保護者からは高い評価をいただいております。情報の発信がなされていることを示している。朝読書による学習効果や、わかりやすく工夫した授業の項目は、生徒、保護者、教職員の評価がほぼ7割程度であるが、学びの中心にあるものなので、満足度を高められるようにしたい。

8) 進路指導部

- ・情報提供について、生徒より保護者・教職員の評価が高くなっている。キャリア教育は全体を俯瞰できる大人の視点が必要であり、それを意識した指導が望まれる。

9) 生徒指導部

- ・部活動について、意欲的に参加できた生徒は5割強であるが、保護者・教職員は7割であり、差があった。科コースごとにもバラつきがあった。加入率は4月89%→10月68%に減少しており、秋以降も継続して活動できる環境整備を行うことが、今後の課題と考えている。

10) 生活指導部

「規範意識を高める規律指導について」・・・

- ・「ほぼ」「すこし」という肯定的な評価が、教職員・生徒・保護者ともに8割前後であった。
- ・保護者の自由記述意見には、生活の乱れや挨拶についての指摘が散見される。
- ・教職員の自由記述意見には、1年次からの徹底や教員の取組に差がある現状についての指摘が見られた。
- ・ほぼ到達されているという保護者、生徒の評価が6割を超えることを目標とし、具体策を立てていく必要がある。

3. 学校諸活動について

1) 調理科

- ・生徒の回答結果をみると、全般的な見直しも必要と考える。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・学校行事に対しては満足度が高い。
- ・ボランティア活動の積極的な取組を意識させる必要がある。

3) 普通科情報表現コース

- ・遠足・修学旅行は高評価だが、学園祭・体育祭が低い。関わり方に工夫が必要

4) 普通科デザインアートコース

- ・ファッションショー等の行事に意欲的に取り組み、保護者も協力的で満足度が高い。ボランティア活動にもっと参加させてほしいという声があったので今後考えていきたい。

5) 普通科総合コース

- ・学園祭・体育祭・遠足・修学旅行については、生徒の積極的な取り組みの様子が同え、学校生活の重要な位置付けになっている。また保護者も同様に生徒の積極的な取り組みの様子を感じており、行事を大切にしている状況がうかがえる。

6) 普通科健康スポーツコース

- ・生徒会活動やボランティアに取り組む機会が少ないと感じる。

7) 進路指導部

- ・思っていたよりも当事者である生徒の評価が高いため、比較的充実した学校生活を送っているといえる。

8) 生徒指導部

- ・学園祭や体育祭、合唱とアンサンブル等行事に意欲的に楽しく参加できた生徒は、8割であり、保護者・教職員ともほぼ同じ満足度であった。今後も一体となって行事に取り組める工夫を凝らしていきたい。
- ・ボランティア活動については、震災直後よりもトーンダウンしている状況もあり、できたと回答した生徒は昨年より若干減少し、4割にとどまった。震災ボランティアについては、今年度も行ったが、継続して実施していくことが必要と考えている。

4. 高大連携について

1) 調理科

- 学科として協力しているが、認知度が充分ではないようである。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- 仙台大学利用は、実績がなく生徒は低い評価であるが、保護者は高い。PTAとして学校見学を行っている評価が出たと思われる。
- 大学情報が不足している。

3) 普通科情報表現コース

- 大学の情報を低学年から発信する必要あり。

4) 普通科デザインアートコース

- あまり理解できていなかった。

5) 普通科総合コース

- 残念ながら生徒にとっては、実感としてあまり感じていないようである。

6) 普通科健康スポーツコース

- 進路についての情報に疎い。

7) 教務部

- 大学からの出前授業などで関わりを深められると良い。

8) 進路指導部

- 保護者の評価が高く、生徒と教職員が低いのは、情報発信は十分だが実際の利用について周知されていないと考えられる。

9) 募集業務部、他校種地域担当部

- 高大連携における仙台大学の施設利用については、ほぼできた、少しできたと答えている保護者が6割はいるものの、生徒・教員はあまりできない、できない、わからないという答えが6割と多い。この傾向は昨年とほとんど変わっていないが、今後も科・コースと連携しながら、仙台大学の施設利用を考えていきたい。
- 大学情報の活用についても、仙台大学の施設利用と同じ傾向である。大学と連携を深めながら、姉妹校である本校にとって必要な大学情報の活用について検討していきたい。

5. 家庭生活について

1) 調理科

- ・家庭学習の習慣がない生徒が「手に職つけて」と来る学科のイメージを払拭することで改善されていくと考える。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・家庭学習は、生徒自身はまだ不足と感じているようだが、国家試験の学習をしているのか、保護者としては半数以上の方が高く評価している。

3) 普通科情報表現コース

- ・「家庭学習の習慣づけ」が保護者は高評価だが、生徒は低評価。「やらなければ」との思いはあるが実行できていないということか。

4) 普通科デザインアートコース

- ・家庭での会話があり生活面では落ち着いているようだが、家庭学習の時間がもっと身につくように強化していきたい。

5) 普通科総合コース

- ・家庭学習については、保護者は声かけをしているが生徒が動かないという状況ではないだろうか。基本的な生活習慣は、生徒も保護者も努力している様子は見える。

6) 普通科健康スポーツコース

- ・家庭学習の習慣が身につけていない。

7) 教務部

- ・保護者や教職員が思うほど、生徒たちは家庭学習が身につけていないのが現状である。進路動向調査においても、家庭学習については「ほとんど家で勉強していない」「30分程度」と答える生徒が多いが、取り組む姿勢を育てるためにまず授業の予習・復習課題を与えることを各教科で徹底してはどうか。

8) 進路指導部

- ・家庭生活の習慣については、生徒自らが厳しく評価しているので、これを改善していただけるような方策が必要と考えられる。